

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500022		
法人名	有限会社 グループ 春の日		
事業所名	グループホーム 春の日		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17		
自己評価作成日	平成24年 11月 19日	評価結果市町村受理日	平成25年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成24年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が利用者本位のサービスが提供できる様に支援し、日々努力しています。 ・事故対策委員会を昨年設置し、ヒヤリ・ハット報告、事故検討会を毎月開催し、その内容を全職員で共有しながら、安全で安心した生活が送れる様な支援を行っています。 ・毎月多くの行事活動を実施し、ご入居者様一人一人に寄り添い、楽しみながら生活を送っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を具体化した行動指針があり、それを全職員で共有し、チームワークで利用者一人ひとりに寄り添うケアサービスに繋げている。ホームは危機管理に力を入れており、災害対策では消防署立ち合いのもと、利用者も参加した避難訓練を実施し避難時間の確認を行った。救急救命の講習を受けた職員も多く、実際に人工呼吸を行ったこともあり、緊急時には心強い体制となっている。安全対策では事故対策委員会を設置し、ヒヤリハットや事故の事例検討などを行うことにより、事故防止に成果が出ている。また、職員の資格取得を積極的に支援しており、介護福祉士などの有資格者が多く、安全安心な介護に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員は常に「見る・待つ・見極める」を日々意識しながら、職員全体で共有し、実践につなげている。	ホームの理念である「ゆとり」は施設長が考えて作った。具体化したケアの指針、「主体性を持つ(見る・待つ・見極める)」をミーティングなどで話し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の催し、敬老会等の際は声を掛けて頂くので積極的に参加させていただいている。 ・施設行事の際は地域の皆様に声掛けさせていただき、民生委員や地域の子供達が参加していただいている。	自治会の加入はないが、民生委員を通じて地域行事の連絡をもらい、盆踊りや敬老会に参加している。また、ホーム前にある武道場の経営者や、そこに通っている子ども達との交流があり、ホームの行事にも参加してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方々の来訪時による相談等には積極的に応じている。 ・運営推進会議等の中で情報発信できる様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で話し合われた内容は業務ミーティングで全職員へ報告し、サービス向上に向けた話し合いを行っている。	今年度の開催は1回である。参加者は民生委員、職員、利用者、近隣の武道場経営者などでホームの現状や行事報告、参加者の意見交換を行った。	家族や地域の人たちなどに声掛けし、多様な参加者を求めたい。会議ではグループホームの存在意義や認知症に関する地域住民への情報提供など、テーマを決めて定期的に開催することが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・担当区域内の社会援護課、介護保険課、障害福祉課とは毎月会う機会があり、何かあった際は相談にのって頂いている。	行政との関わりは密である。特に社会援護課の職員は毎月来訪している。利用者について様々なことで相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設として身体拘束をしない基本方針を全職員が理解している。 ・市主催の身体拘束・高齢者虐待の研修に定期的に参加し、知識、理解の向上に努めている。	身体拘束は絶対にしないケアを実践している。権利擁護に関する研修には交代で参加し、ミーティングで全職員にフィードバックしている。玄関の施錠もせず、外出願望の強い利用者には、その背景を掴み対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・市主催の研修に定期的に参加し、施設内研修も行い、職員の理解に努めている。 ・ご家族との関係作りの重要性も理解し、良好な関係作りに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・定期的な研修会に参加し、施設内での勉強会を実施している。 ・必要性に対しても、話し合いをし、必要であれば支援できる体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・何度でも十分な説明を行い、理解、納得をしていただける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の来訪時に状況報告等をさせていただき、意見や要望等にも耳を傾け、サービスに反映できるように心掛けている。 ・年1回のご家族様アンケート実施時にも、要望等を記載していただけるようにしている。	家族の来訪時には意見を聴くよう心掛けています。また、ホームの便りを送るときに家族の意見を求めています。利用者の外出したい、買い物に行きたいという声にホームで対応をしたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の業務ミーティングで意見を聞き、改善できる事は早急に改善できる様に努めている。	職員関係は良好であり、意見が言いやすい雰囲気である。また、事務所に気づき箱の設置があり、口頭では言いにくいことなどを投函でき、職員には好評である。ユニホームや上履きの支給に関する意見があり、できることを対応します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の個性、チームワークを重要視し、経験者、新人職員共に創意工夫して、業務に取り組んでいただいている。 ・年に数回、職員全員を対象に食事会等を開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修年間計画の中で、技術研修、コミュニケーション技法など、多々盛り込み、職員研修を実施している。 ・外部研修にも積極的に参加している。 ・介護福祉士、介護支援専門員資格取得に向けた内部研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・千葉市グループホーム連絡会等に参加させていただいていることで、交流の場は設けられている。 ・近隣他サービス事業者の方々とのネットワーク作り、交流の場を設けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人の希望、要望等も十分に聞き入れ、施設側での対応範囲を検討し、安心して受入れられるように努めています。 ・事業所としては、その方のストレンスを導き出し、継続、維持して生活できる環境作りを目指し		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設側からサービス導入前の面談等で、三者の関係性(ご利用者様、ご家族様、施設側)の重要性をご説明させていただき、ご家族の方も遠慮なく相談、悩み事を話せ関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居依頼時、現在の生活状況、サービス内容、グループホームへの入居希望の理由等を伺い、身体状況により、当グループホームでよいのか？その方に合ったサービスがあればご紹介、相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は常に逆の立場を考え、自分がされて嫌なことはしないということを認識し、職員も生活環境の一部なんだということをしっかり把握していただいた上で、尊重、尊厳を重要視した関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族には、ご入居前にご本人、ご家族、施設側とのネットワーク作りの重要性についてご理解を求めています。ご家族の方々にはいつでも気兼ねなく面会に来ていただくようお願いしています。その為にも施設側として、ご家族の方々へは来訪しやすい環境、対応を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族以外の面会も多々ある為、積極的に受入れている。 ・ご家族の協力の元、馴染みの場所等への外出機会もある。 ・年賀状、お手紙の作成にも協力し、定期的に出されている方々もいる。	遠くの親戚や兄弟の来訪がある。家族の支援で外出や外食に出掛ける利用者もいる。また、年賀状や手紙は職員が支援し、近くの郵便局まで一緒に出しに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・極力リビングに集まって頂き、体操、レク活動、洗濯、清掃等共同でして頂き、交流の場を自然にもてる様にし、関わりが難しい方でも職員がパイプ役となり、関わりをもて様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された後も、その後の生活に不安等を感じているご本人、ご家族様からのご相談も積極的に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・3ヶ月に1度個別カンファレンスを行い、ご本人の意向を確認しながら実施している。確認が困難な場合はご家族にも事前に確認をし、把握するよう努めている。	入居の際、これまでどのような生活をしてきたのかを把握するため、自宅を訪問し生活状況の情報収集をしている。入居後は基本的にコミュニケーションの中から本人の意向を汲み取る事を重視している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご入居前、ご入居後からも常に情報収集に努め馴染みの暮らしに近い生活が送れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個別記録で日々の生活状況がわかるようになってきている。 ・月1度の業務ミーティングでも現状報告、現状確認をし、情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族の意見、要望等を伺った上で、カンファレンスを実施し、介護計画を作成している。作成後にはご本人、ご家族にも確認をしていただき、同意も得ている。	本人とはコミュニケーションの中で意向を把握し、家族の意向は訪問した際や電話で確認している。その情報をもとにカンファレンスで意見を集約し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・24年10月より、記録用紙を新しくし、詳細を詳しく書けるような用紙に変更した所である。 ・ご家族への情報開示、職員間での共有もできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々の要望、ご家族の要望等に対しても相談援助は柔軟に対応している。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近隣の方々にも催しなどに参加して頂き、グループホームの認知をして頂いている。 ・民生委員の方々にも訪問して頂き、地域の行事(盆踊り、敬老会)等にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関として、月2回の往診をしていたが、全体の健康管理をしていただいている。 ・他医療機関を受診した方がいい方などは、協力医療機関の先生より、紹介状等をいただき、受診をしている。	全員が協力医療機関を受診し、週1回訪問歯科が来ている。皮膚科、眼科、耳鼻科はそれぞれ専門医を受診している。週3回人工透析に通う利用者があるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。外部の医療機関の受診が必要と思われるときは、受診時に協力医療機関が紹介状を	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携で協力していただいている訪問看護ステーション間では、定期的な健康管理、医療機関との連絡調整に努めていただき、24時間オンコール体制で入居者全が適切な受診ができるよう支援をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時以降もご家族との連絡、相談等定期的に状態を確認させていただき、その際は主治医の先生とも情報交換をし、退院時のスムーズな受け入れができるようにしている。ソーシャルワーカーとの情報交換も密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に事前指定書として、書面の取り交わしをさせていただいている。施設として指針をしっかり説明し、ご理解をいただき、その内容を協力医療機関にも報告し、情報の共有を図っている。書面の取り交わしは何でもできるものとし、ご本人、ご家族の意向を尊重できるよう、医療機関、施設側も交えて何度も話し合いをするようにしている。	入居時点で、重度化した場合や終末期のあり方について家族などの意向を書面にて確認している。実際に検討する必要が出てきたときは、家族、医療機関、職員が十分な意見交換をして対応している。これまで一度看取りをした経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員全員上級救命救急の講習を受けており、知識、技術を身につけるよう支援している。定期的な急変時に備えた対応を職員全員で確認している。 ・職員も慌てずに対応ができるよう、フローチャー		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、消防署立会いの元、消防訓練を実施している。 ・今年度は消防署立会いで入居者の方も参加した中での消防訓練をさせていただいている。	年2回、消防署立ち合いで防災訓練をしている。利用者も参加して避難訓練を行った。2階の倉庫には災害に備えて水、毛布等の備蓄をしている。近隣の職員もおり、いざという時に協力も得られるが、地域との協力体制ができるとさらに心強いと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の入居者様には、人生の先輩という認識をもって関われるように意識している。 ・同姓介助を望まれる方々への柔軟な対応もとらせていただいている。 	<p>管理者は、ミーティングで利用者は友達ではなく、人生の先輩であるという意識を持てるように話している。職員も利用者が穏やかに心地よく過ごせるような対応を心掛けている。トイレへの誘導も排泄パターンをつかむことでスムーズに行うことで、プライバシーへの配慮に努めている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性をもった関わりの中で、わかりやすい説明、自己決定をしやすい関わり方を意識している。 ・職員は業務優先にし、ご本人の意思、尊重を断ち切らないようにする為に適宜、話し合いの場も設けている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は業務優先になる事なく、一人一人に合った柔軟な対応をとる様意識し、支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人、ご家族の意向を取り入れ、ご本人の好みのものを使用していただくようにしている。 ・ご希望があれば、月1回の訪問理美容サービスを活用していただいている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週間献立表を各フロアーに掲示し、皆様がいつでも見れるようになっている。 ・調理以外、準備、後片付けは職員と一緒にしている。 ・昼食時は職員も一緒に食事をしている。 ・定期的に外食行事を行い、楽しみになるような 	<p>食事は品数も多く、見た目もきれいに盛り付けられている。利用者は能力に応じて、準備や片づけいに参加している。利用者の意向を取り入れ、お寿司屋さんに来てもらいホームで寿司を提供する事など、食事が楽しめるように工夫している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に食事摂取量、水分摂取量等をチェックし、状態把握に努めている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者全員の方々に毎食後の口腔ケアの実施を促している。 ・週1回、訪問歯科の来訪もあり、口腔状態の把握もしていただいている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に日中、夜間共にご本人の意思を尊重し、トイレに行かれる方はトイレでの排泄を促している。 ・夜間、排泄での失敗に不安のある方などはポータブルトイレの使用をされている方もいる。 	それぞれの排泄パターン、排泄能力を把握することで、リハビリパンツから普通の下着になった利用者もいるなど、自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・医師等に相談しながら排便コントロールができる様に下剤の内服をしている。 ・水分摂取を促し、食物繊維類も摂る様に支援している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日、時間帯は基本的に決めず、個々の要望に沿って入浴日を決めている。 ・いつも同じ入浴支援だけでなく、外出支援の一環で入浴施設の方の利用も検討している。 	週3回の入浴を基本にしている。誘導も工夫しており、入浴の拒否は見られない。しょうぶ湯やゆず湯など季節感を大切にしている。利用者の状態により、必要な場合は2人介助で入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活習慣(休息、睡眠パターン)を把握し、昼夜逆転等の生活リズムが変わらないよう、支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者全員の服薬に関しての内容を一覧にし、職員が見やすいようにしている。 ・職員による誤薬事故等がないようにトリプルチェックを実施している。 ・職員は異常の早期発見に努め、何かあった際には医療機関へ 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様には個々に役割をもって過ごしていただくよう支援している。 ・行事レク、個別レク等も豊富に計画し、楽しみや気分転換を図って頂ける様にしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の希望に沿って、ご家族、施設側と協力しながら、外出できるようにしている。 	買い物や近くの郵便局、散歩等の外出は、できるだけ希望に沿う形で行っている。天気の良い日は外気に触れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・数名の方々は自己管理されている。 ・施設管理させていただいている方々へは、必要時にご本人に渡したり、職員と買物等と同行してお金を使用できる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・基本的に電話の使用は自由としている。 ・個別に携帯電話をお持ちの方々は個別に使用されている。 ・年賀状、手紙のやりとりもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各共用スペースも広々しており、トイレ、浴室に関しては使用後必ず消毒を行い、次に使用される方も不快なく利用できるようにしています。 ・廊下も車椅子同士、余裕をもってすれちがう事もでき、歩行訓練としても活用している。	リビングは明るく清潔で、室温も適切に保たれている。冬場など空気が乾燥している時は、加湿器やタオルを干すなどの対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースには、ソファに座りながらテレビ、ラジオ、CD、カラオケ等が観れる。 ・長い廊下には畳イスを準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家族、ご入居者様同士も余裕をもって過ごせるスペースは確保している。 ・居室の物も基本的に馴染みの物を持参していただいて、居心地良く過ごせるよう、配慮させていただいている。 ・居室内清掃も、ご本人で出来る方はしていた	利用者は馴染みの品を持ち込んで、居心地良く過ごせるようにしている。転倒の危険がある人の居室にはフロアにマットを敷いたり、家具の角をカバーしたり事故を未然に防ぐ配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共用スペースには、手すり、バリアフリー、呼出し装置の設置もしており、自立した生活を送れるようにはなっている。 ・入居者様の中で、個々に必要と思われる方々は、福祉用具の活用もすすめ、安全面でも配慮させていただいている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所